

令和5年度

大阪府立水都国際中学校及び大阪府立水都国際高等学校

指定管理法人業務 事業報告書

## 1 特定公立国際教育学校等の概要

名称	大阪府立水都国際中学校 大阪府立水都国際高等学校
所在地	大阪市住之江区南港中3丁目7番13号
設置形態	学校教育法第71条に規定する併設型中高一貫校
設置学級数	中学校 3年6学級(235名) 高等学校 3年10学級(386名)

## 2 指定公立国際教育学校等管理法人(指定管理法人)の概要

法人名	学校法人大阪YMCA
主たる事務所の位置	大阪市西区土佐堀1丁目5番6号
代表者	理事長 末岡 祥弘
担当役員	理事 山根 一毅
担当者	課長 小西 雄希
連絡先	06-7662-9600
指定期間	令和4年4月1日～令和11年3月31日
報告対象期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日

## 3 指定管理法人業務の実施状況

### (1)管理運営上の目標

<教育目標> 「社会に貢献する共創力をみがく」中高共通

主体性...強い意志と使命感を持って、自ら考え判断し、行動する資質・能力。

寛容性...多様な価値観やその背景を心広く、受け入れる資質・能力。

探究心...よりよく課題を解決し自己の生き方を考えていくための資質・能力。

<課題>

・IB認定校としてIB教育が学校全体に広がるよう取り組みを強化する。

・防災及び防犯計画に基づき、安全対策を徹底する。

・管理法人のネットワークを利用した教育活動を推進する。

中高共通

<重点目標>

・公立学校の水準を担保しつつ、本校の特色を生かしたウエルビーイング部を中心に生徒指導に関する方針を作成し、上記、教育目標の資質・能力を育む。

・安定した学校運営を行うため教職員の採用・登用・育成を計画的に実施する。

・課題探究型教育の推進、自己表現スキルの向上をめざし、外部コンテストへの参加、外部との連携を積極的に行う。

・本校の実践内容等を他の府立学校に周知し、大阪府の特色ある教育を推進する拠点校としての役割を担う。

### (2)具体的な取組とその結果

#### 1.中高共通

①生徒・教職員が安心して生活できる環境づくりを行う

生徒主体による生徒の行動規範「**Suito Model**」をWell-Being部と生徒で作成し、生徒への日常の学校生活全般に活かされるよう、教職員の研修会を2回行った。また人権意識を高めるため、学年ごとに研修を行い、高校2年生においては拉致被害者に関する授業で北朝鮮人権侵害問題啓発週間作文コンクールに応募し、グランプリを取る生徒も輩出した。新築棟での防災対策として、住之江消防と連携し2回の避難訓練を行い、災害時の避難方法について生徒に周知するとともに、保護者にも発信した。不審者対応として、住之江警察と連携し教員研修を行い、教員の共通理解を深めた。

②進路指導を強化する

年3回実施した海外大学説明会、年2回実施した留学カウンセラーによるカウンセリング並びに、高校2年生希望者対象のマレーシア海外研修の実施により、海外大学等への進学について、生徒の興味関心を深めることができた。一方、探究学習の成果等を用いた国内大学の総合型選抜について周知し、生徒に目を向けさせ、生徒一人一人の希望とスキルにあった進路指導を展開した。

③校務整理と人材育成を図り、教育効果の高い学校運営を行う

国際バカロレア (IB) ワークショップ研修及び探究型授業に関する研修に28名の教員が参加し、問題解決型学習の指導力が向上した。新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したことにより、海外からの来客、訪問も増え、本校の外国籍の教員を中心にWelcome Assembly等の企画・運営を行い、効率的かつ効果的な取り組みを実施することができた。また、大阪府教育庁主催の研修にも6名の教員が参加し、指導力の向上や校務の理解が進んだ。

④開かれた学校づくりを行う

学校の特色ある教育活動について、教員による出前授業を3回行い、外部への教育講演会を1回行った。

⑤助成金取得によるプログラム展開

三菱みらい教育財団の助成により「**Suito Action Project for SDGs**」という通年の講座を開講した。これは中1から高3までの学年を超えたプロジェクトチームを結成し、生徒たちが主体的にSDGs達成するためにどのようにして社会問題を解決していくかを探究する学習である。3年目となる令和5年度は、複数のプロジェクトで外部の評価を得ることができた。一例として、数学教育学会で高校3年生が発表を行い、この活動をもって、総合型選抜に挑戦し、大学に進学することができた。全てのプロジェクトは、2月に開催したアカデミックフェアでの発表を行った。

2.高等学校

①学力向上

高校1年次の数学において、英語習熟度や数学の理解度に応じた習熟度クラスを設定した結果、高校1年数学の外部評価基準 (GTZ) のC・Dゾーンの生徒の割合を40%以下にするという目標に対し、24%という結果を残し、大きく目標を達成した。同時に英語検定に向けた補習を設定し、高校1年生の英語力の向上をさせることができた。

②IB教育を推進する

高校1年生全員を対象にIBに関する基礎的な説明会を行い、その後、より強く希望する生徒や保護者対象の説明会も行った。またIB学習に関する生徒研修会を19回行った。結果、生徒、保護者のIB教育への理解が促進され、令和6年度高校2年IBコース選択者は19名になった。

③個性を見つけ、そのスキルを伸ばす

探究、TOKを通して、個々の生徒の興味の方向性を理解させ、成果発表の場を2回設定した。大阪府生徒研究発表会、北朝鮮人権侵害問題啓発週間作文コンクール、LETS合同発表会、SDGs QUESTみらい甲子園など、学内だけではなく、学外のコンテスト等に積極的に参加し、受賞した。また、SAの取り組みにおいて、学会発表を行い、大学進学につなげた生徒も出てきた。これらの事例が出たことにより、教員内でも一定の基準や目指すレベルが明確に伝わり、次年度はさらなる発展が期待できる。

### 3.中学校

#### ①個性を見つけ、そのスキルを伸ばす

中学校1年生の早期から3年間を見通したキャリア教育を実施した。中学1年生は現役作家による職業観を育む講話、中学2年生はYMCA職員による国際協力のあり方についての講話、中学3年生は大学教授やICTコンサルタントなど、学問とその先にある就業観を育む講話を行いました。また、学校全体として作文コンクールにも挑戦し、言葉で表現することを伸ばしている。

### (3)教育課程

#### 1.中学校教育課程について

別紙1-1 中学校教育課程表に基づいて実施

#### 2.高等学校教育課程について

別紙1-2 高等学校教育課程表に基づいて実施

#### 3.英語を用いた授業の実施状況

##### ①中学校

英語、数学、理科、グローバルスタディーズの授業で英語を用いた授業を行った。副担任にネイティブ教員を配置し、ホームルームの一部について英語を用いて実施した。

##### ②高等学校

英語、数学、理科、グローバルイシューの授業で英語を用いた授業を行った。副担任にネイティブ教員を配置し、ホームルームの一部について英語を用いて実施した。

### (4)年間行事

別紙2の年間行事予定表に基づいて実施。

### (5)入学者選抜の実施状況

#### <中学校>

日 程:令和6年1月20日

志願者数:329名

合格者数:81名

#### <高等学校>

日 程:令和6年2月20日、21日

志願者数:106名 (特別選抜 97名、帰国生選抜 9名)

合格者数:82名 (特別選抜 76名、帰国生選抜 8名)

### (6)卒業者の状況

別紙3 進路・合格実績(令和6年5月7日現在)

### (7)高3生(3期生)のIBスコア結果

#### 1 フルディプロマ取得について

・フルディプロマ取得率:78%

#### 2 科目サーティフィケート(IBコース生以外)について

・IB国語4名・IB知の理論(TOK)7名

### (8)英語力の状況(令和6年3月31日時点)

#### 中学校

	CEFR A1	CEFR A2	CEFR B1	CEFR B2	CEFR C1
中学1年	12名	50名	16名	2名	0名
中学2年	5名	52名	20名	1名	0名
中学3年	3名	42名	28名	4名	1名

#### 高等学校

	CEFR A1	CEFR A2	CEFR B1	CEFR B2	CEFR C1
--	---------	---------	---------	---------	---------

高校1年	1名	56名	81名	17名	3名
高校2年	1名	28名	77名	34名	2名
高校3年	2名	13名	36名	18名	4名

(9)その他処分の状況

処分等		中学校	高等学校
懲戒	退学	0	0
	停学	0	3
	訓告	1	0
転入学、編入学		0	0
転出、退学		2	9
休学、留学		0	12

(10)民間知見を活用した教育活動の状況

YMCAのネットワークを活用し、マレーシアのウーロンゴン大学・インティ大学・ティーラーズ大学との連携の中で高校2年生のマレーシア海外研修打合せを行った。また同様にマレーシアのスインバーン工科大学と今後の連携に向けて協議を行った。アメリカ総領事館との連携を通してハワイ州教育庁、ジェームスキャンベル高校と海外研修を実施し、ホノルルYMCAの協力を得て交流プログラムを行った。CAS活動のアドバイザーとしてYMCAの有識ボランティアを活用し質の高い学びを提供した。

(11)教育上特別の配慮を必要とする生徒への支援等の状況

YMCAより専門家を派遣してもらい、特別支援委員会を定期的に行い、当該生徒の学校生活の様子を把握し、対応した。また、生徒理解に努め、保護者の思いに寄り添い、個別の支援計画の作成を行った。

(12)管理施設の補修・修繕、更新等の状況

新築棟体育館 天井ボード雨漏り箇所補修  
 新築棟体育館 床軋み箇所補修  
 新築棟及び既存棟 放送設備一斉放送不具合箇所修理  
 新築棟正門及び中庭ガラス扉枠 補強修理  
 新築棟プール倉庫 扉ヒンジ部分修理  
 新築棟屋上プール ドライ仕様床ドレイン部分補修  
 新築棟2階～4階 テラス花壇散水栓ホース調整  
 新築棟調理室内 調理機器配管のゆるみ調整  
 既存棟 外壁ブロック塀 レンガ一部欠落の為セメント補修(管理作業員補修実施)

## 4 職員の配置状況

(1) 教職員の配置状況(令和5年5月1日時点)

職名	中学校		高等学校	
	常勤	非常勤	常勤	非常勤
校長	1*中高共通	0	0	0
副校長	0	0	1*中高共通	0

教頭	1	0	1	0
主幹教諭	0	0	0	0
指導教諭	0	0	0	0
教諭	12	0	42	3*中高共通
養護教諭	1*中高共通	0	0	0
栄養教諭	0	0	0	0
実習助手	0	0	8	0
事務職員	1	0	21	0
学校用務員	1	0	1	0
計	17	0	74	3

(2) 外国人の教諭等の配置状況(令和5年5月1日時点)

職名	教員免許状	担当教科	担当校種	雇用形態
英語教諭(2名)	特別免許	英語	高等学校	常勤
数学教諭(4名)	特別免許	数学	高等学校	常勤
理科教諭(4名)	特別免許	理科	高等学校	常勤
指導助手(8名)	なし	英語・数学・理科	高等学校	常勤
ICT職員(1名)	なし	ICT	事務職員	常勤

5 管理代行料に係る収支の状況

(1) 収入

項目	金額
管理代行料	766,886,000円

(2) 支出

項目	金額
人件費	570,942,109円
消耗品費	17,844,711円
備品購入費	9,342,520円
光熱水費	18,650,170円

管理委託費	36,006,575円
渉外費	85,792円
通信費	2,565,533円
賃借料	19,185,809円
保険料	2,239,671円
租税公課	53,087,993円
広報費	1,948,322円
旅費交通費	8,105,440円
会議費	33,260円
報酬・委託・手数料	8,041,120円
諸会費	1,781,094円
修繕費	517,000円
福利厚生費	13,930,867円
研修費	2,272,219円
雑費	305,795円
計	766,886,000円

## 6 その他取組の状況

### (1)個人情報保護の取組

- ・個人情報保護に必要な体制を整備し、適切に管理している。

### (2)情報公開の取組

- ・学校HPを活用し、積極的な情報公開を適切に行っている。

### (3)教職員研修の状況等人材育成の取組

- ・教職員研修会及びOJT等を用いて学内での人材育成の実施
- ・大阪府教育委員会主催の各種研修及び大阪YMCAの研修に参加
- ・IBワークショップに参加

### (4)入学希望者数増加に向けた取組

- ・学校説明会実施  
中学校:4回 / 高等学校:4回
- ・外部団体等主催進学説明会等参加 年間20回
- ・中学校出前授業2校、学校教員対象説明会1回 等

### (5)大阪府の学校教育全体の拠点校としての取組

- ・全国高等学校長協会(全高長)にて本校の事例報告を行った。
- ・近畿大学附属高校での国際バカロレア教育関連の大規模教育研修会にて、本校Creative Learning  
・IB Visual Arts担当教員が講師を務めた。
- ・大阪市外国語指導員研修の実施。

- ・大学での教育講演の実施、学校訪問受け入れを多数実施。

(6)IBに関する取組

- ・中学校で「数学」「理科」「国際理解(学校選択教科)」等、高等学校で「数学」「理科」「グローバル探究(学校設定教科)」等の教科等について、英語による指導(イマージョン教育)を実施した。
- ・IB受講生の取組の紹介  
IB科目の校内成果発表や中学生、高校1年生対象のワークショップなど、IB受講生の取組により、校内のIB文化の醸成が図れた。
- ・CAS活動について  
青少年育成や奉仕に関して経験が豊富なYアンバサダー(YMCAのOBOG)とオンラインにて生徒と交流会や発表会を実施したことにより、生徒の様々なプロジェクトが改善されるとともに、学校外のコミュニティが本校のIB教育等についての理解を深める機会とすることができた。

(7)地域との連携、活性化に寄与する取組

- ・地域活動協議会への参加
- ・大阪市社会福祉協議会より講師を招き「ボランティア活動の魅力、身近な活動を知る」をテーマに講演を3月21日に行った。
- ・ゲートボール部が南港さざんか海のまち協議会と協働し、ゲートボール練習を実施。
- ・南港さざんか海のまち福祉会館にて、毎月第三土曜日にふれあい喫茶ボランティアに参加。
- ・Suito Action Project for SDGsの活動として、さきしま小中一貫校の小学生に英語を継続的に教える機会を設けた。
- ・大阪市住之江区役所選挙管理委員会をお招きし、選挙についての出前授業を行った。

(8)大学・企業等との連携の取組

- ・スウィンバーグ工科大学と教育研究連携協定の覚書を取り交わした。
- ・大阪教育大学からのインターン生受け入れを行った。
- ・兵庫教育大学からのインターン生受け入れを行った。
- ・兵庫教育大学との連携協定を結んだ。
- ・カルガリー大学からのインターン生受け入れを行った。
- ・U.S.Department of Stateと本校英語科主催でのワークショップを行った。
- ・アメリカ領事館より領事をお招きし生徒に対し研修を行った。
- ・同志社大学・大阪大学・ミネルバ大学による出前授業を行った。
- ・指定校推薦大学の確保増。
- ・観光局との連携によりメキシコの中高生受け入れ実施。
- ・ハワイJames Campbell High Schoolの生徒の受け入れを行った。
- ・Jockey Club Man Kwan Eduyoung Collegeの生徒の受け入れを行った。
- ・鹿島建設・東京理科大学より講師を招き本校の独自科目であるCLにて特別講義を行った。

(9)その他の取組

- ・他自治体教育委員会の学校訪問 等